

アクティブシニアと 子どもの居場所づくり



子ども食堂にシニアの力!!

県内各地に広がる子ども食堂では、多くのシニアの方々が趣味や特技を活かして参加されています。

子どもが元気に、地域が元気になるシニアのパワー。

今号では、子ども食堂で活躍するアクティブシニアを紹介します。



もくじ

- **<アクティブシニアと子どもの居場所づくり>**
- 02. 多様なスタッフの経験・特技を結集した子どもの居場所づくり
NPO法人やんちゃ寺 市木 美知子さん
- 03. レクリエーションがつなぐシニアと子どもの輪
子どもカフェあおぞら 樋口 一さん
- 04. 【寄稿】子ども食堂との出会い
NPO法人レイカディアえにしの会 会長 堀井 宏さん
- 05. 子ども子育て世代とのつながりで、活動も人生も活性化する
京都光華女子大学 南 多恵子さん
- **<第30回滋賀県シルバー作品展実施報告>**
- 06. 作品制作の取り組み紹介
- 07. シルバー作品大賞 彫刻の部 渡辺 紘さん



活動に参加したきっかけ

私は、小・中学校の養護教諭(保健室の先生)として、保健室の中で児童・生徒の心身の健康教育に34年間携わり、定年退職後は大学講師を経て、74歳で仕事を辞めました。

長年、保健室で子どもたちと関わる中で、子どもの心の不調は顔の表情や身体の症状と密接な関係にあることを実感し、学校の中で保健室が子どもの心のオアシスの存在になるよう努めてきましたが、子どもたちにとって学校でも家庭でもない安心・安全な場が必要ではないかと常に感じていました。

そんなことを退職後も考えていたところ、やんちゃ寺を立ち上げた理事長が生きづらさを感じている子どもたちの安全・安心の場「居場所」をつくりたいという話をしているのをテレビで見たことがきっかけで、理事長に直接会いに行き「私でお役に立つことがあればボランティアで参加させていただきたい」と話したところ了解を頂きました。

そして、「地域の保健室」ともいえるやんちゃ寺に、私の養護教諭人生の集大成として、新たな気持ちで参加することになりました。

実際に参加して

やんちゃ寺でのスタッフと子どもの関係は、指導や支援ではなく、対等な立場で居場所の日だけ、その空間に集まってその時間を共有するという共通理解をしています。

長年、学校という教育現場で子どもに指導や支援をしてきたので、子どもたちの安心・安全な場をつくることができるかという不安はありましたが、子どもたちが来所回数を重ねる中で、表情が変わり、ありのままの自分を取り戻す様子が見られるとき、理想的な居場所づくりができていることを実感します。

スタッフは、退職したサラリーマンから大学生、専門職(教員、看護師、管理栄養士、ソーシャルワーカー)、そしてラジオDJや歌手もいます。この多様なメンバーが、それぞれの経験や特技を生かして提供することがやんちゃ寺の特徴です。例えば、手芸の得意な人からアクセサリーや小物作り、歌手からボイストレーニング、学生からプレゼンテーション、教員経験者から読み聞かせ、そして、私自身は煎茶道教室を営んでいますので、お点前体験と茶歌舞伎体験(利き茶クイズ)等、学校では経験しないことを行っています。

やんちゃ寺の子ども食堂

やんちゃ寺の拠点である「遍照寺」住職のご厚意により、炊事場なども提供いただいています。

月一回地域の農家や店舗からいただいた食材を使って、管理栄養士の指導のもと、食堂を開いています。コロナで開催できない月もありますが、提供してくださった方々に感謝して、メニューを考え、デザートなどは子どもも一緒に作ります。

心が落ちつくお寺でご飯を食べることで、ゲームや運動の時とまた違った話題も飛び出し、有意義な場になっています。



これからの抱負

私の座右の銘は「出会いは力なり宝なり」です。子どもたちには、多くの人たちと出会っていろんなことを吸収して、等身大の自分を大切に、社会へ巣立ってほしいと思います。

また、私自身も、過去どう生きてきたかではなく、これからどう生きるかを大事に、仲間とともに活動を続けていきたいです。



遍照寺の前庭で卓球を楽しむ



様々な年齢の仲間とゲームに熱中

やんちゃ寺食堂

- 【実施団体】 NPO 法人やんちゃ寺
- 【開催日】 毎月 第3土曜日
- 【開催場所】 遍照寺(草津市)
- 【スタート】 2019年



子どもカフェあおぞら 樋口 一さん

「子ども食堂」との出会い

「滋賀県生涯学習インストラクターの会」の一員として、レイカディア大学健康づくり学科での学びも生かしながら、福祉施設や子ども会等でレクリエーション活動をしてきました。さらに、活動を広げていくために、「子ども食堂」でも活動ができないかと考えていたところ、私と同じ地域在住かつレイカディア大学卒業生でもある知人が代表をしている「子ども食堂」に出会うことができました。

知人に「子ども食堂」でレクリエーション活動をしたい旨を伝えたとこ、食事の前の遊ぶ時間に是非との回答をいただいたことで、活動がスタートすることになりました。



「子ども食堂」デビュー

子ども食堂のスタッフは、参加者受付対応や食事の準備等で忙しくされていて、「遊ぶ」ことについては、目が届いていないのが現状でした。

そこで、ご飯を食べるまでの時間でレクリエーション活動をすることになり、中学生の参加者にも手伝ってもらいながら、クラフトやスライムを始めました。



スライムづくりおもしろいね♪

子どもと関わるうえでのポイント

子どもと関わる中で最も大事にしていることは、強制しないことです。

興味・関心のある子、そうではない子など様々です。子どもたちが興味・関心を持つ遊びをして楽しんでいる姿をみると、自分の意志で主体的に遊ぶことがよいのだと確信を持つことができました。

100人もの子どもたちが遊ぶ様子は圧巻です。たくさん子どもたちに囲まれいつの間にか子どもたちと一緒に楽しんでいる自分がいます。

子ども食堂のよいところは、地域の様々な年代の人たちと交流できることです。家でも学校でもないこのような地域の居場所が子どもの力を引き出しているように感じます。



積極的にお手伝い!



100人分頑張ろう!

レクリエーションで地域づくり

この地域活動やボランティア活動をしていく中で、「人と人とのつながり」の大切さを感じます。

これまで、出会った仲間が、私の活動と交流の幅を広げ、人生を楽しく豊かなものしてくれます。これからも人の縁を大事に仲間を大切にしていきたいと思えます。

また、子ども食堂やレクリエーション活動に共感して下さる仲間を増やし、継続した活動になっていくこと、そしてシニアも子どもも元気な地域づくりがすすんでいくことが私の願いです。

子どもカフェあおぞら

【開催日時】 奇数月第2土曜日
 【開催場所】 南部コミュニティセンター
 (東近江市)
 【スタート】 2017年

取材を終えて

コロナ禍のため、残念ながら子ども食堂の活動場所には行けず、長寿社会福祉センターでインタビューを行いました。

市木さんの取材は、終始ハキハキとテンポよく…。その中から市木さんのワクワクが伝わってきました。学校でも家庭でもない、子どもたちの心地よい居場所を作る!という目的に向かい、意欲的に活動されています。自分のためにも、社会のためにも、これからの生き方をより豊かに…その思いがあふれる内容の取材でした。(編集委員:N)

取材が終わろうかとする時になって、樋口さんはゴソゴソと「レクリエーション活動」の小道具をカバンから出し始めました。手作りのクラフトなどを並べて眼鏡の奥は嬉しそうです。「もっと早く出してくださいよ(笑)」親しみやすい雰囲気樋口さんです。レクリエーション活動は樋口さんの人生を豊かにしているようです。(編集委員:M)



レイカディアえにしの会と子ども食堂との関係は縁深い。

会の設立当初(2016年8月)どんな活動をどこに向けて展開すればいいのか? 考えあぐねていたところ、滋賀県社会福祉協議会より「子ども食堂全国交流会 inしが」の全国大会を開催するので、協力をしてほしいとの要請を頂いた。2017年2月で場所はびわ湖大津プリンスホテルでした。いよいよ我々の活動デビューの機会が舞い込んだわけでありませう。

総力を結集して紙芝居・手品・歌とギター演奏の出前公演、並びに折り紙・木の実ストラップを作る実演コーナー、作品展示などのデモンストレーションを行い、大きな反響を手にしました。この時の貴重な体験が今も我々の活動の原点になっております。以後、県社協主催の子どもの笑顔はぐぐみプロジェクト「子ども食堂フェスタ」が2018年8月より長寿社会福祉センターで年に一度のペースで開催されるようになりました。県下の子ども食堂関係者をベースに一同が集まるこの場において、紙芝居などの講演活動と遊び体験コーナーを設置し、手作りおもちゃの制作やスポーツコーナーで子どもたちと接しています。また実際に各地の子ども食堂からの要請に応じて、出前公演などを行い



三日月知事とえにしの会メンバー

「くだものピンゴ」では手作り折り紙を回答者にプレゼントしたりして、子どもと身近に触れ合い喜ばれてもいます。これからも子ども食堂との関わりを通じて、少しでも楽しく、またより一層の社会貢献につながるよう努力していきたいと思っております。



紙飛行機を作りました(子ども食堂フェスタにて)



スポーツコーナー(子ども食堂フェスタにて)



折り紙コーナーでの子どもたち



手あそびを楽しむ子どもたち

京都光華女子大学健康科学部医療福祉学科社会福祉専攻 准教授 南 多恵子さん



シニアの皆さんが地域でボランティアをする意味はいくつもあると思いますが、社会参加により人とのつながりが増え、健康の維持増進に役立つというメリットはよく聞かれます。また、経験豊かな皆さんの登場により、新たな取り組みが展開される期待もあります。

今回の特集では、子ども食堂で活躍するシニアの皆さんが取り上げられています。レポートからは、まさに、ご本人にも、活動にも、非常に良い影響を生み出していることがわかります。

「やんちゃ寺」では、元養護教諭の市木さんが、それまでのご経験や抱いてこられた思いを胸に、新たな実践づくりに汗を流しておられます。多様な専門家が集い、理想的な居場所づくりを目指すメンバーとして力を発揮しておられます。

「子どもカフェあおぞら」では、活動者の樋口さんが、子ども食堂で中学生参加者とともにレクリエーション活動をさ

れ存在感を示しておられます。そして、子どもたちとの遊びを通じて“人生が豊かになる”ともおっしゃっています。

「レイカディアえにしの会」では、子ども食堂への出前(紙芝居、手品、マジック、折り紙、演奏等)、子ども食堂フェスタにおける出展など、大勢のシニアの皆さんが、広く県内の子ども食堂を支えておられます。

このことから、皆さんが子ども食堂の活性化に大いに貢献されていることがわかります。また、これまでに培われた経験、知識、趣味、特技は、子ども・若者支援の場で大いに生きると同時に、皆さん方の新たな一面も発見できて、ともに元気になることが再確認できました。子ども食堂は県内に数多くあります。現在は感染予防のために制限があると思いますが是非一度、身近な食堂に足を運んでいただけたらと思います。



遊べる・学べる淡海子ども食堂ってなに？

遊べる・学べる淡海子ども食堂(以下、子ども食堂)は、“ごはん”を通じて地域ぐるみで子どもを見守り育てていく、垣根のない居場所です。食堂をきっかけにさまざまな世代がつながり、困っている人を放っておかない、あたたかなまなざしあふれる地域づくりをめざしています。

子どもたちが安心できる大人と出会い、みんなで囲むあったかいごはんや勉強・遊びを通じて、地域のなかで大事にされて「ほっ」と安心できる食堂を、皆さんの思いと工夫でつくっています。

滋賀県内の子ども食堂は、146か所(2021年7月現在)あります。遊べる・学べる淡海子ども食堂について詳しくはこちら!

「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」HPをご覧ください。

「子どもの笑顔」スポンサー募集中! スポンサーは、企業・事業所、団体、個人どなたでもなることができます。

滋賀の縁創造実践センター
社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会
地域養護・はぐくみグループ
tel.077-567-3924 fax.077-567-5160
Email:shiga-hug@shigashakyo.jp



みんな集まれ!

子ども食堂フェスタ2021

開催日

2021年11月28日(日)

会場

県立長寿社会福祉センター

内容

子ども食堂カレーサミット
遊びコーナー・展示コーナー
ステージコーナー

みなさまお誘いあわせのうえ、
ご参加ください!!



ねんりんピックびわこ・レイカディア県民大会

第30回 滋賀県シルバー作品展

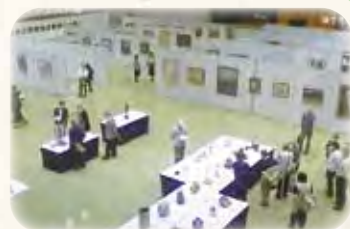
滋賀県に在住する60歳以上の方の創作活動を促進し、生きがいづくりを支援するため、日頃創作された作品の発表の機会と鑑賞の場として、第30回「滋賀県シルバー作品展」を開催しました。

日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の6部門に、221点の応募がありました。

【開催日】2021年5月29日(土)～6月10日(木)

【会場】県立文化産業交流会館(米原市)※全作品を展示
イオンモール草津(草津市)※入賞・表彰作品を展示

【来場者数】1,310名



▲県立文化産業交流会館会場(全作品展示)



▲表彰式



▲作品講習会

シルバー作品展は動画で楽しむことができます。
ぜひご覧ください。



びわこシニアネット 動画



取材

シルバー作品大賞 彫刻の部 渡辺紘さんの取り組み紹介



今回の作品群の中でひと際目をひいた新聞紙で作られた作品「いつもお世話になっています」制作者の渡辺紘さんにインタビューしてきました。

Q.新聞紙だけを使った制作活動は珍しいと思うのですが
定年退職後の約10年、独学で木彫をしていました。肩を壊して彫刻刀が握れなくなり、やめようとしていた時に、新聞紙と出会いました。

Q.なぜ新聞紙??

近くに新聞があったから・・・です(笑)

Q.新聞紙制作のむつかしさ・大変さはありますか

すべてを新聞紙で作っています。糊を水で溶いたもので新聞紙を何層にも貼り合わせていきます。根気のいる作業です。機械に頼らず自然乾燥にこだわっているので時間がかかることと、乾燥場所が広く必要なこと。梅雨の時期は大敵です。



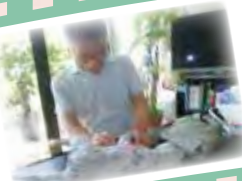
渡辺紘さん
作品完成までのメイキング

梅雨の時期～夏

- ・構想を練る
- ・新聞の仕上げ

秋～冬

- ・土台作り
- ・新聞紙を1枚ずつ貼り合わせ



冬～春

仕上げ作業

出品1ヶ月前

乾燥

太陽にあててゆっくりじっくり乾燥

Q.作品にザック、キャップ、シューズを選んだのは

本来は動物が得意です。躍動感があり訴える力が強いから・・・でもシルバー作品展に出す作品ですから、見てくださる方が懐かしく感じるもの、面白いと思うものを選びました。

シルバー作品大賞 12作品

—第33回全国健康福祉祭ぎふ大会美術展へ出展します—

〈洋画の部〉



「影富士(近江富士)」 中島 勝



「早春賦」 小松 賢二

〈日本画の部〉



「厳冬」 田中 米子

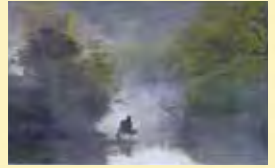


「散華」 高田 とみ子

〈写真の部〉



「クライマックス」 片桐 正行



「静寂な一時」 瀬川 正昭

〈書の部〉



「漢詩句」 木下 里華



「楓橋夜泊」
今井 光華

〈彫刻の部〉



「宇宙環境」 巖田 敏幸



「いつもお世話になっています」
渡辺 紘

〈工芸の部〉



「木香薔薇の季節」
武田 黎子



「収穫を待つ」
巖田 敏幸

審査委員長コメント 山尾 才さん

皆さん夢中になって創作しておられる!自分の作品の中に入り込んで制作を楽しんでおられる。これが最高なんです。賞の選考には苦労しましたが、本当はみなさん全員に差し上げたかった。これが本音です。

Q.こだわった点は

靴も帽子もすべて実際に、履いたりかぶったりが可能です。靴は特にこだわりました。靴底の厚みになるまで、新聞紙を一枚ずつ貼り合わせ、靴底の凹凸も表現したり...1足4カ月ほどかかっています。靴紐の色、帽子のライン、ポール部分には色がありますが、新聞のカラー部分を集めておいてアクセントに使用しました。新聞の株式ページを表面に使用することで白っぽくスタイリッシュに仕上げました。

Q.シルバー作品大賞受賞について

出品する以上は受賞できてうれしいです。展覧会に出かけてほかの仲間がどのような作品を作っているのか見るのも勉強になりますし、講評会で先生方のご指導をいただくのも、独学の私にとっては貴重な場です。



第33回全国健康福祉祭ぎふ大会 出展
令和3年10月30日(土)~11月2日(火)
(展示は3日(水・祝)まで)



シルバー作品展出品
シルバー作品大賞受賞
令和3年5月29日(土)



完成



Q.来年への意気込みをお聞かせください

作品作りが生活の一部になっています。食卓で作品づくりをしている状態ですから...私のライフワークですね。本当に楽しいです。来年も今年以上にわくわくする作品を作りたいです。

取材を終えて

昨年はコロナ禍で開催を見送りました。今年もまだコロナ収束とならない中で心配しましたが、必要な対応をしながら開催し、221点の力作が揃いました。とても緻密な作品が多く、皆さんがどのように取り組まれているのか、ちょっと覗いてみたくなりました。コロナ禍でうち時間が長くなる中、皆様うまく工夫して、生き生きと制作されていました。審査委員長の山尾先生のお言葉を借りれば、皆さんに賞を差し上げたい!!来年の作品展には、もっと多くの方にエントリーしていただきたいと思いました。(編集委員:A)

全国200万人加入!! 日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料 (1名あたり)

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		×	○	
年間保険料			350円	500円	

商品パンフレットは
こちら



(ふくしの保険
ホームページ)

団体割引 20%適用済 / 過去の損害率による割増引適用

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行われる各種行事におけるケガや賠償責任を補償!

送迎サービス補償 (傷害保険)

送迎・移送サービス中の自動車事故などによるケガを補償!

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

ヘルパー・ケアマネジャーなどの活動中のケガや賠償責任を補償!

● このご案内は概要を説明したものです。お申込み、パンフレット・詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03 (3349) 5137
受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03 (3581) 4667 FAX: 03 (3581) 4763
受付時間: 平日の9:30~17:30 (12/29~1/3を除きます。)

●この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。